

国営讃岐まんのう公園

国営讃岐まんのう公園は、香川県まんのう町に位置する四国唯一の国営公園です。空海が修築したとされる日本一のため池・満濃池を望む丘陵地に位置しているため、豊かな自然と空海ゆかりの文化的土壌を活かして、「人間との語らい、自然・宇宙とのふれあい」を基本テーマとして整備されてきました。

国営讃岐まんのう公園は、昭和 59 年度に事業採択され、昭和 61 年に国営讃岐まんのう公園工事事務所が発足、平成元年に起工し、平成 10 年に中央広場ゾーン、宿泊ゾーンなどが第一期開園されました（供用面積約 80ha）。その後、平成 12 年に北口園路・総合センター、平成 14 年に自然生態園、平成 17 年に満濃池展望遊歩道、平成 18 年に湖畔通り線園路、平成 20 年に湖畔ゾーン一帯及び健康ゾーンのドラ夢ドーム・芝生広場、平成 23 年に果樹園やドッグランなどの健康ゾーン一帯が追加開園され、平成 25 年 4 月にさぬきの森の開園により全面開園となりました（供用面積 350ha）。

公園の整備にあたっては、豊かな自然や美しい景観への配慮がなされるとともに、地元からの要望への対応も行われています。例えば、満濃池近くの湖畔ゾーンでは、満濃池堤防からの眺望の範囲内に人工の構造物が見えないようにとの要望があり、遊歩道橋などを森で死角となる位置に設置したり、工法や材料で工夫するなどして景観形成を図っています。また、健康ゾーンでは、できるだけ華美な人工物を避けるとともに、土工バランスのとれた切り土・盛り土による山谷やシンボルとなる大木を配置するなどして、訪れた人が豊かな自然の中で花めぐりやレクリエーション活動を行うことができるように整備されています。さらに真夏の炎天下や雨天時にもイベントを安全に行うことができるようにとの要望に対して、全天候型大型テント「ドラ夢ドーム」(広さ 1,600 m²) も整備されています。

公園の管理やイベントでは、開園当初からボランティアなど住民参加の取り組みが積極的に行われています。竜頭の里での四季の草花・花木の手入れ、さぬきの森での樹木の間伐や植樹、湖畔の森でのガイドウォーク、里山自然観察会、ネイチャークラフトの体験教室、陶芸教室、木工教室などに、ボランティアや小学生、地域団体などが参加しています。

国営讃岐まんのう公園の累計入園者数は、令和元年 11 月に 900 万人を超えました。開園から 21 年 8 カ月でした。入園者数が 1,000 万人を超えるのも間もなくです。エントランス広場で公園マスコットの「ドラ夢 (ム)」が皆さんのお越しを待っています。ドラ夢という名前はドラゴンが夢の公園へ連れて行ってくれることをイメージしたもので、愛称の一般公募に、当時小学 5 年生の丸亀市の女の子が応募したものだそうです。

<参考文献：四国地方整備局事業評価監視委員会資料、四国地方整備局「国営讃岐まんのう公園管理運営プログラム」2017 年、四国建設弘済会「弘済会だより第 21 号」2012 年>



国営讃岐まんのう公園HPの園内マップに加筆